

ココヘリ説明会資料



2022.11.24

AUTHENTIC JAPAN株式会社

会員制搜索ヘリサービス 「ココヘリ」とは

●サービスの概略

①個人がココヘリに入会 ➡ ②会員証(ID付発信機)発行 ➡ ③登山に出掛ける
(入会金3300円+年会費5500円) (登山届提出)

➡ ④不測の事態発生 ➡ ⑤留守宅より搜索依頼
(道迷い・滑落等) (24時間・365日受付)

※本人・現場で携帯電話が通じる場合110/119番通報

➡ ⑥民間ヘリ出動(搜索・救助550万円まで提供) ➡ ⑦位置(座標取得)特定
☆天候等によりドローン搜索チームが出動

※搜索要請受電～出動～搜索状況は当該警察署と情報共有

➡⑧特定した位置情報を当該救助組織(警察/消防)に通報します。

※吊り上げ等の直接救助作業は致しません。

※免責事項:位置特定を100%保証するものではありません。

●なぜ、ココヘリが必要か

現状：山岳遭難が発生すると搜索に膨大な時間と費用を費やしています。

一因として登山届を提出していない等、登山者側にも問題がありますが、登山届により搜索エリアを特定できても、人海戦術と空からの“目視”のために発見に至るまでには多くの時間を要しています。

発見に至らない場合もあります。

令和3年には3075人が遭難、内28人もの方が行方不明となっています。

早期発見は生存率の向上及び搜索機関の経済的負担の軽減にも直結。

○未発見時の経済的リスク

遭難者は「失踪者」として扱われ、死亡認定が下りるまでの7年間もの間、ご家族は

①生命保険金・住宅ローンの債務弁済を受け取ることができません。

②会社も無断欠勤を理由に解雇され、退職金が支払われない場合もあります。

●より早く！確実に！「見つける」ための「機器の性能」

発信器＝会員証

- ・重量・・・20 g/ポリカーボネート製
- ・電池寿命・・・約2.5ヶ月/スイッチONの状態
USB充電式・充電時間約2時間/リチウムイオン電池
- ・個別識別・・・IDにより個別識別
- ・防水性能・・・生活防水

探知距離

①ヘリからサーチ

- ・通常受信機使用時 ➡ 3 km～4 km
- ・専用ブーストアンテナ使用時 ➡ 最長16 km

②ドローン＝専用アンテナ搭載によるサーチ ➡ 最長10 Km

③地上サーチ ➡ ～1 km/地形に大きく影響される。

電波減衰＝使用している電波は水中では伝わりません。

- ・ポーチや胸ポケット等に入れて身体の下敷き状態＝（人体の60％は水分）
- ・沢登りなどで会員証が水没状態

※雪中埋没時：2m程度までは電波減衰致しません。

●事例 1 単独 /2020.8月上旬 静岡県 防災ヘリ・県警ヘリ・ココヘリ出動

・タイムライン

11：00 ご家族から捜索依頼受電 ➡ 12：00 ご本人が119番 GPS座標取得 ➡ ココヘリ
受信機搭載防災ヘリ出動/発見に至らず ➡ 17：00 ご本人が110番 GPS座標取得 ➡
受信機搭載県警ヘリ出動/取得した座標で発見に至らず

・捜索2日目

9：30 ココヘリ出動/前日17：00取得のGPS情報を基にサーチ・・・反応なし

10：45 通報時から移動していることが発覚。ポイントを変えてサーチ・・・反応なし

12：00 給油して2フライト目 天候悪化のため捜索中断し帰投

・捜索3日目

8：30 ココヘリ出動／3フライト目 前日サーチエリアからスタート ➡ 9：45 発見！

当初取得したGPS座標から離れた谷 ➡ 10：10 救助隊到着

※携帯通信圏内で遭難者ご本人と通信可能・・・道迷いから滑落、負傷。

遭難後に移動、さらに谷に転落するアクシデントが重なり捜索が難航・長期化しました。

●事例 2 2人パーティー /2019.8月上旬 富山県・県警ヘリ

・タイムライン

道迷い発生 ➡ 10:00 ご本人から宿泊予定の山小屋に連絡（到着が遅れる旨） ➡
山小屋へは到着せず ➡ 山小屋から警察に通報

・ 検索1日目

14:00 警察が他の登山者の目撃情報が無いことを確認/警察から本人に連絡するも繋がらない ➡ ご本人から警察へ折り返し連絡あり ➡ 携帯からGPS座標取得 ➡
県警ヘリ 出動 1時間検索するも発見には至らず ➡ 22:59 ご家族からココヘリに通報

・ 検索2日目

9:00 受信機搭載の県警ヘリコプター出動 / バックアップとしてココヘリ待機 ➡
受信機が即電波を補足しヘリ直下に対象者発見 ➡ 9:21 収容！

●事例 3 単独 / 2020.11下旬 長野県 ドローンによる初めての発見

・タイムライン/状況

23：18ご家族より通報 ➡ 地元警察署と情報共有（逐一）・ヘリ手配

・捜索1日目

6：35天気判断/ヘリフライト不可能 ➡ 6：43ドローン捜索チームに出動要請 ➡
天候回復に備えてココヘリ待機 ➡ 10：43ドローン捜索チーム登山口出発 ➡

13：58ドローン捜索チーム第1フライト予定地点到着 ➡ 悪天の中、僅かな好天を
突いて県警ヘリが捜索（ココヘリ受信機搭載）するも特定できず、空域離脱 ➡

15：01ドローンを飛ばし、直後に電波補足：3.8kmを表示 ⇒ 距離860mまで絞り
込み位置を特定 ⇒ 特定した位置情報を警察に通報

・捜索2目

8：36山小屋入りしていた警察地上隊が位置情報近くで“受信機にてサーチ”⇒ 電波
補足150m表示 ⇒ 県警ヘリにて収容

●検索・救助について

当社は、2022年7月1日をもちまして
日本山岳救助機構合同会社(jRO)を完全子会社化致しました。
jROの完全子会社化に伴い「ココヘリ」は以下の通りとなります。

従来：民間ヘリにての検索(1事案3フライトまで無料)から

①検索・救助：年間550万円までを提供(民間ヘリ・ドローンチーム・地上隊等)

※ココヘリの年会費5500円は据え置き

(別途入会金3300円：初年度のみ必要)

②個人賠償責任補償 最大1億円が付帯

③アウトドア用品補償 最大3万円が付帯

☆探す＋経済面で支える＋リスクから守る＝「ココヘリ」になりました。

●登山計画書(登山届け)について

勤労者山岳連盟内又は山岳会で定められた提出ルールに従い、必ず提出してください。

提出の際には事案発生時に最初に「ココヘリ緊急コールセンター」へ通報する方(例:奥様等)とも共有して下さい。

通報受電時、最初に行うのは「登山計画書の有無」です。

・山域 ・山名 ・ルート ・日程等を把握して「搜索プラン」を立てます。

※登山計画書が無く、搜索エリアを特定する為に時間を要した事案もあります。また、警察への搜索要請時の受理も円滑になります。

☆注意事項

①計画変更時:通報する方(奥様等)へも変更を通知してください。

②日時の間違いに注意:日時の記入ミスによる出動事案もあります。

●事案発生から搜索要請・出動

下山予定日時を大きく過ぎても下山連絡が無い＝遭難が疑われる

ココヘリ緊急コールセンターへ架電(24時間・365日受付) ➡
ココヘリ担当者より通報者へ架電 ➡ 登山計画書有無他状況ヒアリング
➡ 通報者に警察への搜索要請を依頼 ➡ ココヘリ担当者が警察とコンタクト ➡ 警察と搜索プランの共有 (同時に現地天候他リサーチ・民間ヘリ・ドローンサーチT・地上隊等の出動調整) ➡ 通報者とも情報共有 ➡
出動 ➡ サーチ ➡ 発見! ➡ 絞り込み ➡ 座標特定 ➡ 救助隊(警察・消防)へ特定した座標を通報 …救助隊による救助

※ココヘリは直接の救助は行いません。

●その他

・事例から

一定個所やエリアを除き、多くの山岳エリアは「携帯電話の圏外です」。

このことを知らない(登山未経験)の留守宅の方(奥様・父母等)が

☆午前中は携帯が通じたのに午後は通じなくなった。

☆LINEで逐一写真を送ってきたけど送ってこなくなった。電話をしても通じない。

☆山小屋に着いたとの連絡が無い……

ココヘリで安否を確認して欲しい(登山計画日程内)との通報が増えています。

通報される方の“心配”はいかばかりか想像に難くありません。

帰りを待つ人の為に、「多くの山岳エリアでは携帯が通じない事を事前にお伝えてしてください」・登山アプリの位置情報も正確にお伝えください。

●ココヘリ（発信機）を携行していれば早期解決に大きく寄与できます。

- ・ココヘリがお役立ちできた案件は、山岳遭難全体で見ればごく僅かです。
山岳遭難のニュースを見るたびに「ココヘリ」を持っていてくれたらな・・・
と切に思います。
シーズン毎に繰り返される山菜取り、キノコ採りの方々の事故もしかりです。
- ・現在（2022年10月末）ココヘリの会員様は約50,000名です。
まだまだ点の状態ではなっておりません。
事案解決のお役に立てずにあります。

一人でも多くの方にココヘリ会員になっていただき、「もしも」に備えていただきたく思います。

AUTHENTIC JAPAN株式会社
専務取締役 八木澤 美好